

4. 水需要予測

本市簡易水道事業の過去 10 年間の実績値を元に今後の水需要を予測した結果を、表 4.1 に示します。給水人口及び給水量ともにほぼ横ばいで推移すると予想されます。なお、水需要量は、給水量の約半分を占める工場用水の動向に大きく依存されますが、最新年実績で横ばいと仮定した予測としました。

表 4.1 本市簡易水道事業の水需要予測結果（平成 30 年）

項 目		予測値	備 考
計画給水人口		3,700 人	平成 30 年
計画給水量	一日最大	3,720m ³ /日	〃、負荷率 78%
	一日平均	2,900m ³ /日	〃、有収率 86%

(1) 給水人口

給水人口の実績及び予測結果を図 4.1 に示します。給水人口は、平成 12 年以降横ばい、平成 15 年以降は減少に転じていましたが、平成 19 年に一旦増加しました。今後は、緩やかな減少傾向が続くものと思われ、予測結果は 3,700 人となりました。なお、平均世帯人員（人/世帯）は平成 6 年度が 3.74 であるのに対し、平成 19 年度は 3.11 と単調に減少してきており、一人当たりの水使用量は微増傾向となる可能性があります。

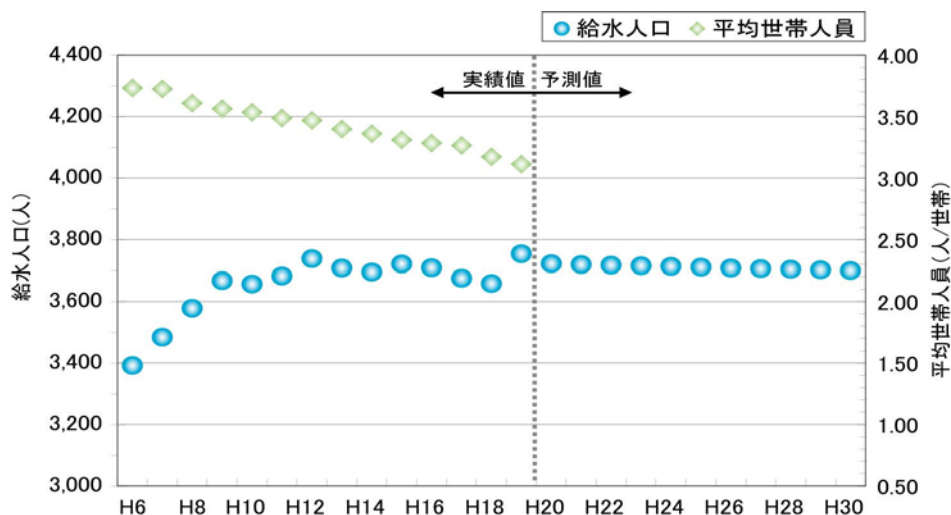


図 4.1 給水人口の実績及び予測値

* 予測は、トレンド推計による

(2) 給水量

一日平均給水量の内訳を図 4.2 に示します。豊富地区の特徴として水量（有収水量）の約半分を工場用水が占めています。図中の一般用には、一般家庭に業務・営業系の用水（道の駅等を含む）を加えているため、一般家庭の比率は50%を下回る傾向にあります。

給水人口は微減傾向であります。業務・営業用水を加えた一人当たりの水使用量（L/人・日）が過去増加傾向であったことから、全体としては、微増傾向となります。工場用水の今後の動向は不透明であります。横ばいであると想定すると、計画給水量は図 4.3 に示すようにほぼ横ばいで推移する結果となります。

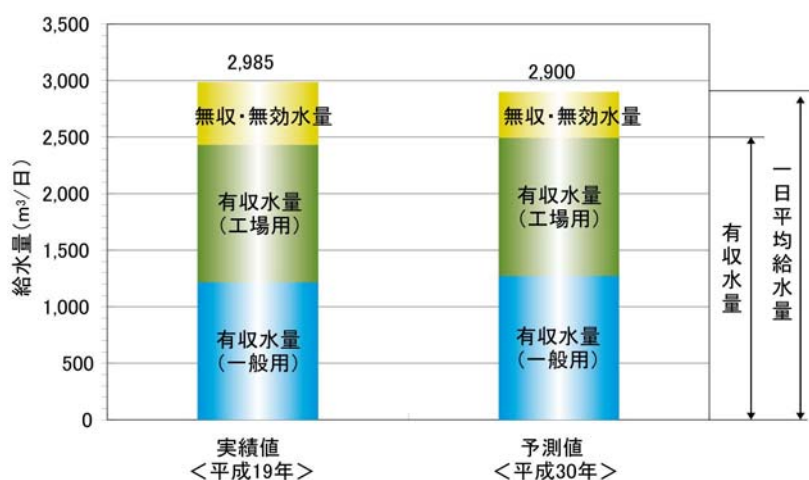


図 4.2 一日平均給水量の内訳

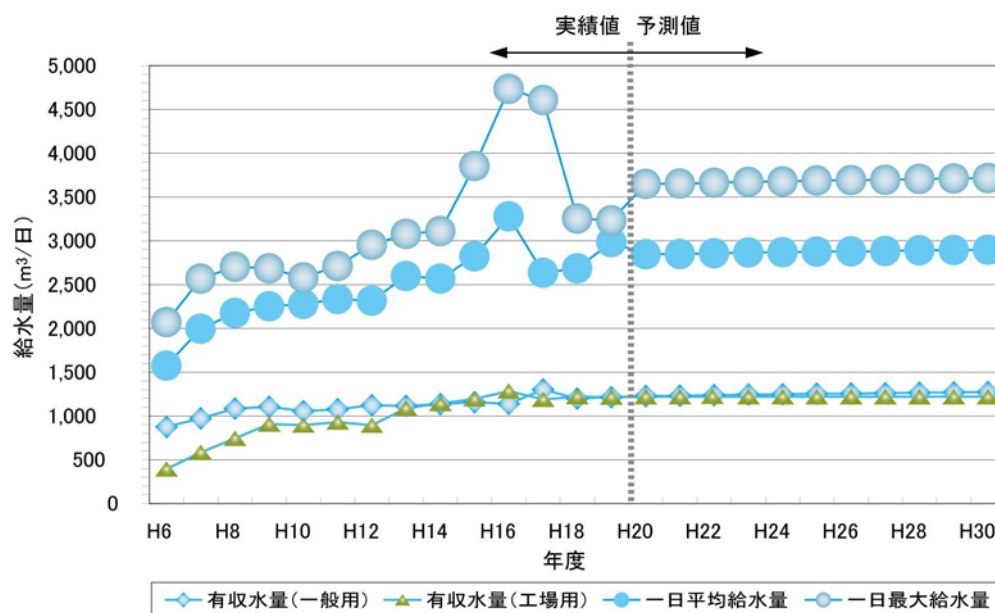


図 4.3 計画給水量の実績及び予測値

- *1 有収水量 ; 水道メータで検針した実際に利用され、かつ料金徴収の対象となる水量
- *2 一日平均給水量 ; 水道施設から配水した年間の総水量を365日で除した水量
- *3 一日最大給水量 ; 水道施設から配水した水量のうち年間で最も多い日の水量